

◆ 板橋都税事務所長賞 ◆

「タブレット」

板橋区立赤塚第三中学校 3年 小峯 梨花

近年、全国の小中学校で、タブレット端末が配布されている。私の中学校でも、私が入学した年には、タブレット端末の配布が始まっていた。初めて配られた自分だけのタブレット。スマートフォンとは違う大きな画面。「このタブレットは国から借りているもので卒業したら返す」ということを、先生達から何度も聞いた。私は「借りている物を壊すなんてありえない。三年間大切に使おう。」と心の底から思った。初めの頃は大好きだったタブレットも、授業で毎回使うわけではない。しかし、毎日タブレットを持っていかなければならない。そんな日々を繰り返していくうちにだんだんとタブレットの存在が邪魔になってくる。クラスでも、タブレットを雑に扱う人をよく見かけるようになった。タブレットを勢いよく閉じたり、ケースにしまわなくなっていたり。私もその一人だ。正直、重いタブレットを毎日持ってきたり、充電したりするのは面倒だと思えるようになっていた。

ケースに入れなくなって、前よりタブレットの表面に傷がつき始めた頃、学校で税について教わった。その時、今更ながらこのタブレットは税金で買われたものだと気づいた。税金のおかげで無料でもらえたこのタブレットはいくらするのか調べたところ、一台四万五千円するということが分かった。また東京都では、小中学校の教育費のために四千八百五十四億円が当てられていることを知った。学校に通っている生徒の親や、自分の親だけでなく、子供がいない大人も、私達の教育費となる税金を払ってくれている。タブレットなどの電子機器を使って、こんなにも良い教育が受けられるのは大人達のおかげだ。私はもう、自分だけのタブレットとは思えなくなった。これは国民のお金で、国民のタブレットだ。少し前の、タブレットを邪魔で面倒だと思った自分の考えも行動も、今になって後悔している。この気持ちを忘れないように、大切に使いしていきたい。今は、布のケースにタブレットを入れて大切にしている。

高校や大学は義務教育ではなくなり、勉強するのにもお金がかかるようになる。大人達がよりよい教育を受けさせてくれている今、授業を聞かないなんて、勉強をしないなんて勿体ない。このタブレットが配られた意味を考えて使いたい。今、こんなに良い教育を受けさせてもらえるのは、未来の日本を創っていくのは私達だからだと思う。その期待に応えられるように、勉強しようと思った。そして、私が大人になった時に、今の大人が私達の教育費を支えてくれたように、今度は私が子供達の教育費を支えたい。

国民が払う税金のうち、およそ四千億は小中学校の教育費にあてられていることが分かりこんなに支えてもらって勉強できる環境が作られているのに、私達が勉強を怠ることはあり得ないと思った。この環境にもっと感謝しようと思う。